

# 松本清張記念館

◆館報◆  
2002.1  
第8号

## 残るのは最後の策なり



昭和30年(1955)11月初版 高山書院

「西郷札」は、清張が朝日新聞西部本社に勤めていた昭和二十五年、『週刊朝日』が募集した「百万人の小説」に応募し、三等入選した「デジ」一作である。

『週刊朝日別冊 春季増刊号』(昭和二十六年三月)に掲載され、第一回直木賞候補になった。

表紙の『西郷札』は昭和三十一年十一月、高山書院から出版されたもので、清張五冊目の著書である。

現在入手できる本

松本清張全集 第三十六巻(文藝春秋)  
西郷札傑作短編集三(新潮文庫)

ある夜偶然、雄吾の眼前に季乃が現れた。塚村圭太郎という男の妻になっていた。密かに二人は逢い続ける。そんなとき雄吾は幡生桑太郎という男に、政府の要職にある塚村に西郷札の政府買い上げの件で運動してくれるよう頼まれた。雄吾は季乃を介して塚村に会う。後日、塚村は「充分見込みがある」ので宮崎に行き、密かに西郷札を買いまくるように雄吾を促す。塚村の言葉を信じた雄吾らは買い占めに狂奔した。

しかし一切は、季乃と雄吾の間を嫉妬した塚村の陰謀であった。東京に帰った雄吾は詐欺の容疑者として手配されていた。雄吾は「最後の策」を決意するが……

(学芸担当 中川 里志)

### 作品紹介

(私の)勤める新聞社で、ある展覧会を企画した。出品資料の中に西南戦争の際薩軍が発行した軍票(紙幣)「西郷札」があった。その製造に関係した「日向佐土原士族・樋村雄吾」なる者が明治十一年に記した「覚書」を一読して、「私は興味を惹かれた。――

●企画展	清張を語る
●展示品紹介	「証言・朝日新聞社時代の松本清張」
●探検! 清張記念館	5
●みんなの広場	5
●お知らせ	6
●北九州文学マップ	7
●トピックス	7
	8

# 清張“社長”との一夜

ファインダー<sup>ー</sup>しに見たもう一つの「顔」――。今回の「清張を語る」は文藝春秋編集委員・飯窪敏彦さんにお願いしました。



変装(?)した清張

文藝春秋の写真部員として三十数年仕事をしてきて、偉人、巨人、大家、鬼才、ごく稀に美人と直接接することができ、職業冥利に尽きるなど思っています。清

張先生の写真取材も数回あって、昭和五十七年、五十八年にかけては、大分の古墳、鯛生金山、福岡の瀬高町と、九州への同行取材が三度続きました。

記念館の図録の表紙写真は五十八年の三月に博多のホテルで「コーヒーと一緒に撮った折に、窓からの光だけで数枚撮らせていただいた中の一枚です。先生自身が写真を撮るのが好きということもあって、撮影に進んで協力していただけました。「ぼくはアンダーワードの写真が好きなんだ」とよく言われてました。つまり、意図的に露出不足で撮つて、少々暗めに仕上げる写真が好みだったようで、「このことはお書きになる小説の世界にも共通するものがあるかも知れません。



記念館図録の表紙写真

細やかな気配りをなさりながらフランクにつきあついただき恐縮するほどでしたが、ひとつおもしろいエピソードがあります。昭和四十五年二月のことです。先生のもとに、さる信頼できる筋より、三億円犯人と思われる男がいるとの情報が入って、その男は都内某所でスナックのマスターをやつて、そこで店に行つてみようこうことになりました。編集部のM氏と私が同行することになり、私の役目は“その男”を盗み撮りすることです。スリリングな仕事を緊張ましたが、店に入る前に先生は「これからぼくは変装する。そして、中小企業の社長と社員のグループといふことにしよう。ぼくのことを社長と呼びなさい」と言うと、やおら持参したベレー帽をかぶつて、サングラスをかけたのです(写真参照)。しかしです。その程度では変装とうには程遠く、先生のお顔はかなり知られているからばれてしまうのではないかと大変心配になりましたが入店しました。

細やかな気配りをなさりながらフランクにつきあついただき恐縮するほどでしたが、ひとつおもしろいエピソードがあります。



飯窪敏彦  
iikubo toshihiko

**プロフィール**  
早稲田大学文学部美術科卒業。文藝春秋に入社、写真部員となる。現在は第3編集局編集委員として撮影現場に出ている。今年3月で定年となりリリーカメラマンになる予定。昭和17年札幌市生まれ。



## 松本清張研究会 第5回研究発表会

十二月一日、「松本清張研究会 第五回

研究発表会」が記念館で開催されました。過去四回は東京で行われましたが、今回は地元ならではの清張研究を続ける「北九州松本清張研究会」との交流を図るために、北九州市小倉の地での開催となりました。

講演は、研究会常任理事で立教大学教授の藤井淑禎先生が行いました。演題は『清張ミステリーと女性読者』で、「箱根心中」(昭和三十一年『婦人朝日』)、「遠くからの声」(昭和三十一年『新女苑』)、「二階」(昭和三十三年『婦人朝日』)、「愛と空白の共謀」(昭和三十三年『女性自身』)、「文字のない初登場」(昭和三十五年『女性自身』)



藤井淑禎  
立教大学教授

九州研究会会員で

「性自身」の各作品を紹介しつつ、初期清張作品が男女間の愛憎をどのように描いたかを分析されました。「遠くからの声」までは、制度や規範の側に加担し懲罰的に描いていた。それが、しだいと愛の側に加担していく、「女性自身」と出会うことによって、自立した女性たちの堂々たる生きっぷりへの応援歌という方向へ転じた。世の中の空気の変化を正確に反映させた応援歌としての作品作りが、この時期の清張ミステリーの大きな特徴であり、そこに女性読者の心を掴んでいった清張ミステリーの戦略を見る」ともできる、と論じられました。

研究発表は、「黒地の絵」について北

九州市立大学助教授の松本常彦先生が行いました。同作は昭和二十五年小倉で実際に起きた米兵脱走騒ぎを題材にした小説ですが、作品 자체がはらんでいる文化的、政治的問題をあぶり出す形の発表で、質疑応答も活発になりました。

記念館友の会会員や一般市民の方々も多数参加され、約八十名の参加者は長時間の発表会にもかかわらず熱心に聴講していました。

また翌日には、北九州研究会の代表で北九州市立大学教授の赤塚正幸先生の案内で「文学探訪」に出かけました。明治三十二年六月から三十五年三月まで、森鷗外が陸

理なうなので、「その男」が内側にいる力 ウンター近くの席を取りました。しばらく社長と社員はビールやコーヒーを飲みながら、会社の話を続けましたが、頃合を見て、私はカメラを取り出しテープルに置くと、「社長、私は最近カメラに凝ってまして、先日買ったのがこれです。社長を試写してみたいのですが、この暗さでは写るかどうか」と社長にカメラを向けてました。しかし、ピントは後ろにいる「その男」です。社長は「ストップがなくて大丈夫?」

などと素早い演技をしていましたが、何枚かシャッターを切つて、高感度フィルムが入つており、手こたえがあつたので無事撮了。冷や汗ものの即興芝居が終わつてぐつたりして出ると、先生は銀座の高級クラブで我々を労つてくださいました。

後日、仕上げた写真をお渡しましたが、その後どうなつたかは聞いてしません。社長と連呼したこと。ベレー帽とサンダラスの何ともほほえましい巨人の姿が今なおしっかりと心に残つております。



会場の模様

第五回目の「ふるさと小倉」シリーズは、小倉で過ごした最後の時期を含む、専業作家となるまでの朝日新聞社時代にスポットを当てました。このころについて清張自身は「単調で退屈な生活だった」と述べています。しかし、当時の清張を知る方々から、いたい新証言や資料、清張自身の著述や作品を再吟味すると、「半生の記」ではない清張の姿が見えてきます。今回の企画では、「半生の記」などで描かれた自画像とはひと味違う、新たな清張像を紹介します。

## 4. 泥砂の中 ——〈旅人〉清張

清張は仕事以外の分野にもひろく関心を持ちました。機会をみつけては旅をし、考古学・カメラ・俳句・英語など、このころ培った知識の多くは作家となってから活かされています。ここでは、のちの作家・清張の「知」の素地をかいま見ることが出来ます。



【展示品】  
第一回社内美術展目録(昭和21年)、  
朝日厚生俳句会関係資料、考古学関連書籍、  
松本清張名刺 など

## 5. 出逢いとしての〈百万人の小説〉 —— 芥川賞受賞前後

昭和25年「西郷札」で『週刊朝日』の「百万人の小説」に入選した清張には、文学を通じて新たな知己との出逢いがありました。「或る『小倉日記』伝」での芥川賞受賞、そして上京・専業作家への決断、という人生の大きな転換点には、先輩作家や同僚たちの激励やアドバイスがあったことを紹介します。



【展示品】  
火野葦平書簡、週刊娯楽紙「朝日ウィクリー」、  
初期作品掲載誌 など

# 証言 —— 朝日新聞社時代の松本清張

没後10年記念 特別企画展「ふるさと小倉シリーズ⑤」

平成十四年一月十二日(土)～三月三十日(日)  
松本清張記念館 企画展示室

## 1. 朝日新聞西部本社(時代)

昭和12年、大阪朝日新聞九州支社(15年に朝日新聞西部本社に昇格)は小倉市砂津にモダンな建物を建て、市民の話題をさらいました。

清張はこの年から昭和31年まで朝日新聞社で過ごしました。このコーナーでは、朝日新聞西部本社の変遷や時代背景を追います。



【展示品】  
大阪朝日新聞九州支社新社屋完成披露  
パンフレット・絵葉書(昭和12年) など

## 2. 歯車のネジ ——〈社員〉松本清張

同じように広告版下を描くといっても、新聞社の一員となった清張は仕事に変化を余儀なくされました。ここでは、新聞社の機構の中でのさまざまな「社員」としての清張の姿を紹介します。



【展示品】  
清張の描いた広告のパネル、  
当時の社内図 など

## 3. 家長として —— 松本清張のもう一つの〈素顔〉

清張も気晴らしに同僚と将棋や麻雀に興じた日もありました。家では一家の長として、休日を家族と過ごすこともあり、押し寄せる時代の波から家族を守るべく尽力もしました。仕事を離れた清張の「素顔」の一部を紹介します。



【展示品】  
清張のアルバムより写真、  
清張がデザインした包装紙、  
清張が描いた友人の似顔絵 など



銅鐸は弥生時代、日本で作られた青銅器の一種です。すその広がる扁円筒形の身は空洞で、両側に魚のヒしのような縁（鰭ひれ）が張り出し、頂に鉢（ちゆう）とよぶ釣り手が付きます。鳴らした形跡が残る古い銅鐸もあります。清張は銅鐸は「権力者の財物」としていますが、一般には「祭祀」などの儀式に使われたと考えられています。

記念館では、清張が蒐めた三個の銅鐸を見る」ことができます。

一つは、第一展示室「古代史「一十一」」に展示されています。高四十七センチで、身の反りが強く、ひれ幅の広い特徴的な中型袈裟襷文銅鐸です。神戸市渦森出土、伝徳島出土などのもとの同じグループの銅鐸ですが、特に渦森出土とは身が同大で、同型です。銅鐸に詳しい考古学者三木文雄氏は、「本銅鐸は、損傷があるのは惜しまれるが、銅鐸盛行期の好例の一つである」（『清張日記』昭和五十六年月二十七日）と「鑑定」されました。

あとの二つは小型の銅鐸で——再現家屋に展示されていますが、目にされた方は少ないのではないかでしょうか。玄関の前に立ち、注意深く覗きこんで見て下さい。すぐ左の靴箱の上に、高十九センチの銅鐸と、高十七センチの素文の小銅鐸が並んでいます。

京都橘女子大学長の門脇禎二氏もこれを認め、「松本さんの古代史だけには、敬遠するところかいつか一種の畏れさえもわたくしは覚えるようになつた」（『松本清張の古代史』）と書かれています。また大阪市立大学名誉教授の直木孝次郎氏は『魏志倭人伝』に見える里数百数が五行説にもとづき作成された数字であり、倭までの距離万二千余里という数字も虚妄であるとした清張説は以後の学界に影響を与え、「松本さんは既成の学界の天窓を開け放して、爽な空氣を」吹きこんだ」とだけは確かである。松本さんの古代史に果たした功績はきわめて大きい」（松本さん）の古代史學」と評価されました。

展示ケースの中の銅鐸を見ていると、その青銅の面に、遺跡を調査し、史（資料を博搜・涉獵し、古代史の謎の解明に没頭する清張の姿が、文様のように浮き出てくる思いがします。（学芸担当 中川 里志）

いずれも清張が蒐集したものですが、清張は前出の「清張日記」の中で、「自分は『骨董』に興味なし。ただ古代史関係のものを書いて置きたくなるものだ。（中略）自分のものだと、欠片をむしりとも」とも自由だ。現物を見もししないでという誇りをうけないためにも（中略）「これは自己の資料参考品である」と述べています。

「銅鐸」については、「清張通史（カミ）と青銅の迷路」で詳しくその起源や製作者、文様や地下埋蔵の意味などの謎に挑み、大胆な私説」を展開しています。しかしそれをふくめ清張の発表した諸説への学界の反響は少なかつた。専門の研究者には、作家の古代史は研究史や学説史を踏まえず、史（資料）料の性格や特質への配慮に欠けるとの不満が強いようですが、「古代史疑」や「古代探求」、「私説古風土記」などを読むと、清張古代史にその批判は当たらない」とが分かります。

当館でしか買えないオリジナルグッズは30種類以上。記念に、おみやげに、記念館での感動を持ち帰り。ミュージアムショップは地下1階、階段を降りてすぐです。（開店時間9:30～18:00）

## きよしとハルコの 探検！清張記念館

### “Bf” ミュージアムショップ”的巻



▲テレホンカード、テーブルセンター、絵はがきなどが人気

**ハルコ** 絵はがきなんかも清張の絵よ。絵がこれだけ商品化されている作家はきっと少ないんじゃないかな。元デザイナーの面目躍如って所から。

**きよし** サスが清張、扇子があるね、…つ。

**ハルコ** 私、ダジャレ嫌い。ついてこないで。

**きよし** そ、そんなあ～。

**きよし** うわー、記念館グッズってこんなにあるんだ。  
「清張モノ」の品ぞろえは日本一。当たり前か。

**ハルコ** 企画展の図録も全部ある。見のがした回の分、買っちゃお。全集もそろってるし、清張作品が欲しくなったら、ここに来れば、完ぺきね。

**きよし** 買い物だけなら、無料でいつでも来れるんだよ。また今度研究誌を買いに来ようっと。

**ハルコ** またあ。店員さんに会いたいだけじゃないの？

**きよし** ……。あ、あのテーブルセンター、清張の絵じゃない？

**ハルコ** 話をそらしたわね。『火の路』の取材スケッチじゃない。

# 「砂の器」読書会



去る十月六日(土)と十三日(土)の両日、記念館友の会との共催事業として、平成十三年度読書会を実施しました(参加者二十二名)。今回は、「砂の器」を題材に、参加者

それぞれが作品に対する感想・意見などを述べ合つ形式で行いました。読書会の冒頭で、講師の小林慎也梅光学院大学教授から「砂の器」に関する解説をいたしました。解説の要旨は次のとおりです。



## 一、作品の座標軸

推理小説に登場する人物は、被害者、加害者、関係者、謎解き者、または捜査官に分類されるのが普通である。「砂の器」の場合は、もう一つ別の要素がある。犯人となる和賀英良と三人の父親である。実際の父親、養子に迎え、父親役を果たそうとした三木謙、婚約者の父親である有力政治家。この父と子の関係、人間劇が主要な骨格となっている。「これは、捜査にあたる警官二人の関係にも重なり、父世代

と子世代の対立の形をとる。

当然ながら、その背景には、戦争経験や戦後の価値観、過去の清算などの問題なども浮かび上がってくる。

もう一つは作者の「父と子」である。清張の父は、「半生の記」などによれば、何度も職業を変え、苦労したようだが、親子関係は良く、父親を好きだったようだ。キーワードになる「方言」は、父親の出身地に近いなど、和賀の父親との類似点が見られる。

## 二、作品の背景

この作品が書かれたのは昭和三十五～三十六年である。三十五年は六十年安保の年、国会議事堂をテモ隊が包囲した。この前後に、皇太子成婚、週刊誌「ムー」、北九州市市火野葦平の自殺などがあった。やがて、東京～新大阪間の新幹線開通、東京オリンピック開催などが続き、高度経済成長が加速していた。新しいものと古いもの、さまざまな交代劇が進行した時代であった。

また、作者にとって、全国紙の新聞小説を初めて執筆したことでも注目したい。前衛音楽など新しくてユニークな材料を選び、日本各地を登場させるなど、時間空間の幅は一段と広がった。

「砂の器」は映画化もされている」とから、清張ファンのみならず、一般の多くの人々もその名前を知るところです。ディスカッションでは、小説に限らず、映画「砂の器」との対比にまで話が及び、大いに盛り上がりを見せました。一回とも予定時間を大幅に超過し、「語り足りない」との意見も出るほど熱気のある読書会となりました。

## 「砂の器」上映会



去る十月二十日(土)、小倉井筒屋

「パステルホールにおきまして、「砂の器」上映会が行われました(北九州シネマサロン主催 松本清張記念館開館三周年記念協力事業)。

北九州シネマサロは、日本映画を通じて、映画及び映像文化の振興と映像の視点から郷土を学ぶことを目的とする団体で、春と秋に、北九州

市に關係する映画の上映とその映画の関係者を招聘してトークを実施しております。今回も六回目に当たります。

当日は、ゲストとして「砂の器」撮影監督・川又昂氏をお招きし、上映前にトークショーを行いました。会場の四〇〇ある座席がほぼ満席となる

盛況ぶりでした。



## 「松本清張への思い」

## みんなの広場

### 編集部より

今回もたくさんのご意見をいただきありがとうございました。

実際に様々な「松本清張への思い」をお寄せいただきましたが、中でも、文学活動のみならず絵画や写真など幅広い分野に秀でていたことへの驚きの声や物事に対するあくなき探求心への感嘆の声が、揃って数多く寄せられたことが印象的でした。

今後ともご意見・ご感想をどしどしお寄せ下さい。

このコーナーではアンケートなどで寄せられた意見をもとに、テーマごとに集約して発表しております。第7回のテーマは、

「松本清張記念館を訪ねて思つたこと・感じたこと」です。皆様の声をお待ちしております。(アンケートは館内にも置いております。)

清張氏は私のもっとも尊敬する作家です。今の日本を書いて欲しかった。  
あとにも先にも清張氏のような方はいないと思います(歴史観で)。

(50代 北九州市 女)

清張が英語を話せるなんて知らなかった。けっこう現代的な人なんだな  
と勉強になった。

(10代 北九州市 女)

よく勉強され、語学・美術等いろいろな方面にもすぐれている。いつでも  
メモを持ち歩く熱心さに感動しました。また、字がすばらしい。

(40代 福岡 女)

記念館に来て、松本清張氏の幅広い活躍を知りました。原稿の文字の立派さ、物事に対する几帳面さには驚きました。

(60代 福岡 女)

30年近く前になります。先生がロサンゼルスにお越しになつた折、あつ  
かましくもホテルのお部屋に電話をさし上げてお目にかかりました。“何か  
おもしろい話があれば知らせて下さい”をおっしゃっていたのが耳に残つて  
います。探求心旺盛な方だったのですね。

(50代 アメリカ 女)



# 「清張忌」俳句募集 選考結果

松本清張記念館が  
第2回北九州市  
都市景観賞を受賞!



表彰式の模様

設計者:宮本忠長建築設計事務所  
施工者:(株)松村組・(株)森組JV

## 没後10年 記念事業関連

没後10年関連事業として、14年1月1日以降、以下のテレビ番組において清張作品が取り上げられました。今後も、年間を通じて、清張作品の映像化が計画されています。また、記念館では、今年の8月を中心記念事業を開催いたします。

## ●番組

「天城越え」  
NHK-14年1月2~4日  
「火の記憶」  
(NHKアーカイブスペシャル)  
「最後の自画像」

「恐妻侍の妻」  
NHK-14年1月6日(劇場への招待)

「逃亡」  
NHK-14年1月11日~(金曜時代劇、計6回)

「一年半待て」  
日本テレビ-14年1月15日(火曜サスペンス劇場20周年スペシャル)

(予告)「張込み」  
テレビ朝日系全国ネット・14年3月2日21:00~  
(松本清張没後10周年記念企画  
主演:ビートたけし、緒方直人、鶴田真由(ほか)

## ●編集後記●

今回も、寄稿「清張を語る」や企画展の模様など、内容盛りだくさんでお送りしております。現在、記念館では企画展を実施中です。是非一度お越しください。



イラスト:山藤 章二

編集・発行

## 松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30~午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末 (12月29日~12月31日)
- 観覧料 一般/500円 (400円) 中・高生/300円 (240円)  
小学生/200円 (160円) ( )は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
バス: 小倉北警察署前/NHK前下車  
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

平成十四年八月四日は清張没後十年の節目にあたります。記念館では、没後十年の事業として、記念館友の会との共催により、昨年八月から十月にかけて、「清張忌」を題詠とした俳句の募集を来館者および友の会会員を対象に行いました(投句数二七八句)。選考により、特選ほか三十句が決まりましたので、紹介します。

選者:北九州俳句協会/本田幸信、中島昂  
友の会役員 / 安間隆次、今村元市、城崎全輝、  
須崎美智子 (順不同)

● 清張忌俳句大会大賞  
(麻生 勝行・60才・長崎県諫早市)

● 清張の遺品に見入る炎暑かな  
(村田 弘・58才・小倉北区高尾)

● 松本清張記念館館長賞  
(足田 芳一・68才・八幡東区猪倉町)

● 清張の葉未完の稿に朱を残し  
(吉川 雄一・69才・八幡東区猪倉町)

● 清張忌日本の中が深くなる  
(古野 洋子・67才・小倉北区篠崎)

● 特選 (3句)  
(青木 貞雄・75才・八幡東区帆柱)

● 不器用に削る鉛筆清張忌  
(松浦 茂・31才・山口県岩国市)

● 出雲路の「カメダ」に降りし夏の雨  
(尼崎 澤・69才・福岡市中央区)

● 黒地の絵の街の焼けつく清張忌  
(坊野 靖子・67才・小倉北区足原)

● 月光にあぶり出される黒地の絵  
(田中 寛・67才・戸畠区浅生)

● 何処より這いくる蟻や清張忌  
(井上 百合子・54才・小倉南区上吉田)

● 洗濯機ぶるんと揺れる清張忌  
(福田 人生・80才・小倉北区新高田)

● 点と線つなぐ露けき夜汽車かな  
(矢頭 奎子・70才・小倉北区篠崎)

● 昭和史の裏と表や清張忌  
(平山 静子・82才・熊本市岡田町)

● 酒船は胡人の夢か鳳蝶舞つ  
(法師人 弘・49才・福岡県芳賀郡)

● 感動賞 (1句)  
(吉川 雄一・69才・大分市中島中央)

● 奨励賞 (19句)  
(吉川 雄一彦・40才・大分市中島中央)

● 特別賞 (1句)  
(吉川 雄一彦・40才・大分市中島中央)

## 入選 (10句)

清張の遠いまなざしひつじぐさ  
(田島 沙和・小倉北区清水)

(尼崎 澤・69才・福岡市中央区)

火の路を駆けぬけ逝きし清張忌  
(君見 英子・60才・八幡西区本城東)

奥出雲若葉に映える清張碑  
(野口 康夫・八幡西区西折尾)

千冊の著書の曼陀羅清張忌  
(長田 群青・53才・山形県西八代郡)

清張忌夕焼け雲が手をつなぐ  
(中村 重義・70才・八幡西区河桃町)

点と線仰ぐ星座や清張忌  
(永野 和子・69才・遠賀郡岡垣町)

清張館側迷路めきて秋  
(神 冬子・62才・八幡東区昭和)

清張の家の見取図鱗雲  
(杉本 加津子・73才・田川郡香春町)

冬されて遠き海あり行人  
(熊谷 一彦・40才・大分市中島中央)

清張忌日鏡の奥の点と線  
(岡 節子・60才・門司区旧門司)

修羅の日々清張読みて救われし  
(吉田 万千代・62才・遠賀郡水巻町)

書に埋む歎の深さや清張忌  
(佐々木・58才・小倉南区守恒本町)

鉄の意志残しやきたる清張忌  
(橋野 路子・70才・山口県下関市)

愛したる和布刈の里に躊躇燃ゆ  
(宮崎 ハルカ・64才・八幡東区上本町)

清張の横顔涼し資料館  
(久保山 美登子・60才・福岡市東区)

石榴裂け球形の荒野に立ち尽す  
(若男 ミヨ子・69才・八幡東区中尾)

ペン先にまほうをかけた清張忌  
(田島 沙和・小倉北区清水)

(尼崎 澤・69才・福岡市中央区)

火の路を駆けぬけ逝きし清張忌  
(君見 英子・60才・八幡西区本城東)

奥出雲若葉に映える清張碑  
(野口 康夫・八幡西区西折尾)

千冊の著書の曼陀羅清張忌  
(長田 群青・53才・山形県西八代郡)

清張忌夕焼け雲が手をつなぐ  
(中村 重義・70才・八幡西区河桃町)

点と線仰ぐ星座や清張忌  
(永野 和子・69才・遠賀郡岡垣町)

清張館側迷路めきて秋  
(神 冬子・62才・八幡東区昭和)

清張の家の見取図鱗雲  
(杉本 加津子・73才・田川郡香春町)

冬されて遠き海あり行人  
(熊谷 一彦・40才・大分市中島中央)

清張忌日鏡の奥の点と線  
(岡 節子・60才・門司区旧門司)

修羅の日々清張読みて救われし  
(吉田 万千代・62才・遠賀郡水巻町)

書に埋む歎の深さや清張忌  
(佐々木・58才・小倉南区守恒本町)

鉄の意志残しやきたる清張忌  
(橋野 路子・70才・山口県下関市)

愛したる和布刈の里に躊躇燃ゆ  
(宮崎 ハルカ・64才・八幡東区上本町)

清張の横顔涼し資料館  
(久保山 美登子・60才・福岡市東区)

石榴裂け球形の荒野に立ち尽す  
(若男 ミヨ子・69才・八幡東区中尾)

